

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2020年9月度 番組審議会概要

2020年9月10日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 飯野 勝己 東松 充憲 飯塚 潤(リポート出席)

— 議 題 —

番組名 「テレビ寺子屋」(第2193回)

放送日時 2020年8月23日(日) 6時30分～7時00分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

「テレビ寺子屋」は、1977年の放送開始から40年以上にわたり、子育てや家庭のあり方などをテーマに多彩なゲスト講師を招き、視聴者へのヒントとなるようなメッセージを発信する教育番組。2193回目の今回は、親野智可等さんが「習い事の選び方」をテーマに講演を行った。

多くの親が子供の習い事を「自分が子供のころに取り組んだ」「自分ができなかった」などを理由に選ぶが、親野さんは「それは間違い」で、「まずは子供をよく観察して、興味のあることを見つけ、経験したり学べる場を与え、子供が『自己肯定感』を高められる工夫が大事」と、具体例を挙げながら説明した。

番組は通常、学校や公共施設を会場に公開収録で行われてきたが、今回の放送は新型コロナウイルス感染防止対策のため、初めて無観客でスタジオ収録した回の放送となった。番組内容とともに、演出についても委員の意見を広く伺った。

— 審議概要 —

- ◎演出に凝る番組が多い中、この番組は講師が黒板1枚で話を進めるコンパクトな作りだが、そのシンプルさが長寿の理由だと思う。
- ◎深刻になりがちな「教育」をテーマにしながら、からっとして重苦しさを感じさせないメッセージが番組の持ち味。大事にしてほしい。
- ◎講師がキーワードを黒板に貼っていき、アナウンサーと対話しながら進めるスタイルは、丁寧で分かりやすかった。アナウンサーが講師の次の言葉をうまく引き出していた。
- ◎講師とアナウンサーがお互いに向かい合う対話形式だったので、自分が聴衆の1人として聴いているようないつもの感覚とは違った。
- ◎「A I時代にお勧めな」習い事とは何だろうと期待したが物足りない内容だった。例えばプログラミングなど、A I時代を反映する新しい習い事の傾向などを聞きたかった。
- ◎3月収録とのことだが、やはり距離感が気になった。今の感覚でいうとアクリル板があったほうが良かった。手持ちマイクもちょっとカラオケを連想させる・・・と感じるのは人々の気持ちが過敏になっているためかもしれない。
- ◎少人数でも実際の観客がいた方が、講師が視聴者に語りかける雰囲気が出たのではないか。何人かリモートで参加してもらい、質問を受けてやり取りするなど、可能性は色々あるのではないか。
- ◎長い歴史を持つ番組。吉岡たすく先生のような番組の軸になるような先生の登場に期待したい。
- ◎コロナ禍とはいえ、40年、2,000回を超える番組の形をここで変えていくというのは本当に大変な勇気の要ることだと思う。ぜひ工夫して良い番組を作ってほしい。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2020年10月8日（木）の予定です。